



おばあちゃんのおにぎり

前橋市立宮城小学校 3年 深町 咲月

学校が終わると、わたしはおばあちゃんの家に戻る。

「ただいま。おばあちゃん、いつものアレある？」わたしは、決まってこう言う。すると、台所の方からおばあちゃんの声がする。

「おかえり。あるよ。手をあらって、うがいをしたらね。」おばあちゃんも、決まってこう言う。

手あらいとうがいをすませると、台所の方からおばあちゃんが、いつものアレを持って来る。おばあちゃんが作ったおにぎりだ。

おばあちゃんが作ったおにぎりは、食べやすいようにうすっぺら。丸くて大きなのりがまいてある。一口食べると、いつものおばあちゃんのおにぎりの味。思わずえ顔になる。二口食べると、中の具が出て来る。それは、いつものお楽しみ。

ある日、おばあちゃんが作ったおにぎりをお母さんにも食べさせたいと思った。おばあちゃんにラップをもらって、わたしの食べかけのおにぎりをラップにつつんだ。

お母さんにも、一口おすそわけ。

お母さんは、仕事が終わってわたしをむかえに来た。帰りの車の中で、おすそわけの一口おにぎりを手わたした。お母さんは、何だかふしぎそうな顔をした。

「何これ？」

「いいから食べて。」

お母さんは、ふしぎそうな顔のまま、一口おにぎりを食べた。わたしは、お母さんの顔をずっと見ていた。すると、仕事でつかれているはずの、お母さんの顔がえ顔になった。

「これ、おばあちゃんのおにぎりだね。なつかしいな。お母さんも、小さいころはいつも食べてた。」

おばあちゃんのおにぎりは、みんなをえ顔にさせるおにぎり。

こんどは、お父さんにも食べさせたいな。